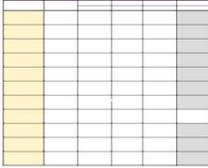


# 「寮歌・白菊の歌」の不思議

<p>① 講演表題</p>	<p>「白菊の歌」誕生のなぞ</p>  <p>明治のロマンを訪ねて 原案 TN13 福谷恒男！</p>	<p>作詞・作曲は神長瞭月か？</p> <p>CD試聴 Tr.9</p>	<p>① 講演表題</p> 	
<p>② 不思議</p>	<p>「白菊の歌」のここがおかしい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋なのに 霞める空(霞は春の季節)</li> <li>・夕方なのに 残る月(残月=有明の月=朝の月)</li> <li>・秋なのに 鹿月(春の季節)</li> <li>・青広の嵐がなびく風なのに 霞(霧)がかかっている</li> </ul> <p>↓ これは気象学的にみるとおかしい。風が強いと地表面付近の乱流で上下の対流が生じて気温が断熱昇温し霧は消散するものだが...</p>	<p>理屈に合わない不思議な歌詞</p>	<p>② 指導経緯</p> 	<p>なぜ、「寮歌・白菊の歌」に関わりを持つようになったか</p>
<p>③ 演歌師</p>	<p>当時の演歌師たち</p> 	<p>歌を広めた演歌師</p> <p>NHK放送開始 大正14年 電気吹き込みSPレコード 昭和2年以降</p>	<p>③ 寮歌斉唱</p>  <p>合同曲 ・Sailing, Sailing ・ああ月明は</p> <p>随時グループ曲 ・白菊の歌 ・鎌倉船の歌 ・商船校の生徒にや ・清水みなと</p>	<p>「海王祭」で寮歌のコンテスト 出演者は新寮生</p>
<p>④ 商船学校</p>	<p>当時の商船学校</p> <p>1. 越中島界隈(東京都古地図明治43年版より)</p> 	<p>歌詞のモデルとなった 商船学校</p>	<p>④ 寮歌指導</p> 	<p>指導を実行委員会に申入れ 練習用CDを毎年配布している 前回のリーダーは女子学生</p> <p>「海洋」に寮歌指導を掲載</p>
<p>⑤ 誕生の地</p>		<p>曲が生まれた萩 歌詞が生まれた(?)大島 海図では屋代島</p>	<p>⑤ 歌詞疑問</p> 	<p>「白菊の歌」の歌詞に疑問 歌詞の調査を開始</p>
<p>⑥ 関係者</p>	<p>「白菊の歌」誕生にかかわった人々</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安藤紀一 山口県立系中学校教諭 明治35年同校の創立記念歌を作詞作曲した。</li> <li>・青山静純 大島商船学校航海科3期生 在学中に「白菊の歌」を文芸雑誌に投稿し入選した。</li> <li>・神長瞭月 明治の演歌師 「松の声」「残月一声」等を大流行させた。「白菊の歌」の作詞作曲をしたと主張してレコード化し全国に普及させた。</li> </ul>	<p>「白菊の歌」誕生の関係者 作曲者 作詞者 功労者</p>	<p>⑥ 歌詞調査</p> 	<p>調査資料 出版社不明の歌集の歌詞コピー 歌集 SPレコード YouTube CD寮歌集 CD試聴 Tr.3</p>
<p>⑦ 大島商船</p>	<p>「白菊の歌」の詳細な記事のある同窓会報と大島商船周辺図</p> 	<p>大島商船学校 同窓会「小松会」の会報に 「白菊の歌」の詳細記事あり</p>	<p>⑦ 調査一覧</p> 	<p>調査結果・歌詞一覧表 白菊の歌、霞める空、寮歌 SP松尾清を橋濤歌集に採用 大島商船の歌詞 神長瞭月と面談の歌詞</p>
<p>⑧ 漢詩</p>	<p>♪ 男児志を立てて郷関を出づ...</p>  <p>海防権 月性</p>	<p>漢詩の作者 吉田松陰と交流があった</p>	<p>⑧ 萩中の曲</p> 	<p>県立「萩高等学校」の校歌集CD 明治35年安藤紀一作詞作曲 萩中学校開校記念歌の収録あり</p> <p>CD試聴 Tr.18 合唱</p>
<p>⑨ 誕生背景</p>	<p>大島商船起源の理由</p> <p>その1 萩中学の歌に歌詞を付けるのは同県の学生の方が可能性として大。 その2 「男児志を立てて...」の作者は大島商船のすぐ近くのお寺の僧侶。 その3 「小松が原」は大島商船のある場所の地名そのもの。 その他 学校の近くには民衆が多くあり「犬の遺状え」がよく聞かえてくる(79)。</p>	<p>歌詞誕生の地(?)</p>	<p>⑨ 楽譜比較</p> 	<p>神長瞭月と安藤紀一の楽譜比較</p> <p>開校記念歌の原曲は昭和五年に発見された数字譜を五線譜にした</p> <p>CD試聴 Tr.16古 Tr.17現</p>
<p>⑩ 纏め</p>	<p>終りに</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「白菊の歌」の原曲を作ったのは安藤紀一氏。</li> <li>・詞の原作者は青山静純氏かまたは神長瞭月氏であるが現在のところ不明。</li> <li>・歌のモデル校としては山口県立大島商船学校の可能性が大きい。</li> <li>・しかし作者やモデル校がどうであれ、「白菊の歌」は商船学校共通の家歌として商船教育のシンボルでありみんなの愛唱歌である。</li> </ul>		<p>⑩ 纏め</p> <p>今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 継承すべき歌詞の選択 海洋会の「橋濤歌集」?</li> <li>2. 歌詞はいつ変化したか いま如何に・いま何処の逆転</li> </ol>	<p>「ああ月明」でも同じ問題がある</p> <p>寮歌絶滅の危機状態にある しかし、マニア・研究者はいる</p>